

社会教育研究部門

「教育と公共」研究部会（第25回）

日時：2021年5月14日（金）13:00～14:30

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：上野正道・浅井幸子・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員

吉久知延所長・金沢千秋・山口和人・川上智子（野間教育研究所事務局）

欠席：田嶋一

内容：（1）狩野研究員報告：「島小における学校公開研究会—研究授業と教材」

- ◆ 公開研究会は第1回（1955年、昭和30年度）から第8回（1962年、昭和37年度）まで開催。授業者・教材・授業案が記録として残っている第2回（1956、昭和31）年度から第8回までと小公開研究会の第3回（1962年、昭和37年度）を整理。
- ◆ 「時期／担当者／学年／科目／授業テーマの表」
合計51回の研究授業が行われ、各年研究会の平均回数は6回である
- ◆ 「各年研究会別の授業回数の表」
公開研究会は2日間にわたって6回行われることが多い
- ◆ 「各担当者別の授業回数の表」
- ◆ 「科目別の授業日数の表」
全51回のうち国語37回。島小においては国語、音楽、体育が重視されていたと言われているが、音楽や体育が研究授業で取り上げられることはなかった
- ◆ 「国語で2回以上取り上げられた教材の表（時期／担当者／学年／作品名）」
- ◆ 「文学教材の表（適当と思われる学年／作品名／種別／作者／扱った学年）」
公開研究会では独自に開発・発掘された教材が予想以上に使われていない
学校作りが地域に受け入れられやすい環境を作るため、なるべく教科書を使った可能性。一方、通常授業ではかなり自由に教科書以外の教材を使っていた
- ◆ 歌唱教材、身体表現教材なども独自に作ったり収集したりしていた。こうした事実から何が見えてくるのか、次回以降に検討する

報告：（1）田嶋研究員が入院・加療のため、当分の間、上野研究員が座長を務める。田嶋研究員は経過に応じて復帰の予定。

・次回研究会 6月11日（金）13:00～